

未来に向けて、さらなる前進 ～建学の精神に基づく教育の充実と発展を推進～

学長 川合 貞子

多くの新入生を迎えて平成 27 年度がスタートしました。学園は華やいだ雰囲気になっています。在学生も進級した学年での新たな学修と、未知なる体験への期待と緊張感を持って気持ちを引き締めている様子が伺えます。

ご承知のように少子化が進む日本社会にあつては、将来を担う人材を育成するため、大学に寄せられる社会的な期待と要請は大きく、そのための教育改革が求められています。「第二期教育振興基本計画」(平成 25～29 年)では、(1) 社会を生き抜く力の養成～多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力～(2) 未来への飛躍を実現する人材の養成～変化や新たな価値を主導・創造し、社会の各分野を牽引していく人材～(3) 学びのセーフティネットの構築～誰もがアクセスできる多様な学習機会を～(4) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成～社会が人を育み、人が社会をつくる好循環～という 4 つの「基本的方向性」が明確に位置づけられ、この基本的方向性を支える教育と研究の環境を整備することが課題となっています。

本学は今年創立 134 年を迎えますが、校祖渡邊辰五郎先生の建学の精神「自主自律」を本学の使命とし、これまでの歴史と伝統の継承的発展を中核に、今日までそれぞれの時代における社会の動きに柔軟に対応しつつ改革を進めてきています。その一例を挙げてみますと、たとえば学生育成支援のため、学生を一貫して育成する仕組みを入試部局、教務部局、就職部局の横の連携を強化したエンロールマネジメントの原理を、実際に大学の組織に取り入れた先駆的な取り組みを 10 余年前に実現しました。それが現在の進路支援センターと教育・学生支援センターです。

進路支援センターでは入学前教育、初年次教育や社会人基礎力養成講座をはじめとする就職に関わる種々の講座を設け、自立意識の形成から就職に繋げています。さらに卒業後も学び直し支援等を実施し、卒業後のさらなる充実した生活への支援を展開しています。就職への支援はもとより、東京家政大学に入学した学生の人生を支えるという使命を持って支援をしています。教育・学生支援センターでは教員の教育・研究活動の支援、学生の学修及び大学生活全般についてのあらゆる支援や、学生の主体的・能動的学修支援を通して学生及び教員の個性・特色を生かした教育・研究の活性化をはかる環境の充実を図っています。

また 26 年度には、調査・研究から得られたエビデンスに基づいた教職員の教育改革への支援や学生の主体的学びを支援するために、学内各部署との協働のより効果的な推進を図り、大学運営をも支援する機関として学修・教育開発センターが発足し、初年次より積極的な活動が実施されています。さらに 26 年度には狭山キャンパスに看護学部と子ども学部が新設されました。少子高齢社会にあつて社会的支援の充実と充足が急務となっている人材養成の

専門領域への進出であり、大学にとっては大きな改革でした。おかげさまで教職員の方々の熱意とそれに呼応する学生の意欲によって、狭山キャンパスは充実した一年となりました。

10 年余り前と昨年度の改革の一部を述べましたが、この他これまでに多くの改革が精力的に行われてきました。全て改革は学生一人ひとりの豊かな人間性の涵養と可能性の実現を促す教育を創出するために行われてきました。今後も多様性にあふれた現代社会や未来社会において、柔軟な思考力と決断力を持ち、自己肯定感を持って社会に貢献できる学生の育成のための改革が、さらに進められなければなりません。「学校法人渡辺学園東京家政大学将来計画策定のための検討会議」が昨年 11 月に発足し、教育改革と教育研究環境の充実と、その実現のための組織整備計画を中・長期的に策定することを目的とし、現在進行しています。建学の精神の軸を堅持し、さらなる教育の充実と発展を推進してまいります。